

単元名 3 言葉と向き合う ―短歌に親しむ・短歌を味わう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 情景などを表す語句に着目して作品を読み深めることができる。また、情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作することができる。
- (2) 複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えることができる。
- 好きな一首を選び、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作ることができる。
- (3) 進んで短歌の構成や表現の効果について考えるとともに、学習の見通しをもって短歌を創作しようとする。

標準的な展開例

11210114_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを確認し、本時の学習課題をつかむ。 <p>★短歌の情景や作者の心情を理解し、朗読しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文を通読し、短歌の形式と歴史についてまとめる。 ○本文と短歌を読み、作品の内容と朗読の仕方を知る。 <p>○筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現の意味を考える。</p> <p>○情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。</p> <p>2 「短歌を味わう」を読み、内容や表現の仕方について感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★それぞれの短歌の情景を捉え、作者の思いを想像しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「短歌を味わう」(p.72)の朗読を聞く。 <p>○それぞれの短歌の大意を理解する。</p> <p>○短歌について、自分が心惹かれた言葉や表現を書き抜きコメントを書く。</p> <p>3 「短歌を作ろう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★表現を工夫して短歌を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「短歌を作ろう」(p.73)を読み、短歌を作るときの観点を知る。 <p>○自分の経験や生活をもとに短歌の下の句を作る。</p> <p>○次時は句会を開いて、お互いの作品を読み合うことを知る。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★句会を開こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の人の作品を読む。 <p>○自分のお気に入りの句を選び、理由をまとめる。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことに着目して、短歌を読み味わったか。 ・短歌の創作において、心情や情景などを伝えるためにどのような工夫をしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌について知っていることや小学校で学習した短歌などを発表させることによって、課題意識を高めたい。 ・冒頭の段落を基に、二文でまとめさせる。 ・短歌の意味の切れ目に注意して朗読する。先に教師が読み、その後に続いて生徒に朗読させるとよい。 <p>【評】意味を理解して朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の語句や表現を抜き出させ、一人の読者としての感じ方を大切にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・意味の切れ目や抑揚などに注意し、適宜教科書に書き込みをさせながら聞かせる。 ・各短歌の通釈をプリントして配布して、簡単な解説を加えていくとよい。 <p>【評】自分が心惹かれた短歌についてコメントを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通する上の句(例「十四歳この一年の思い出は」)を提示し、これにつなげて下の句を作らせる。 ・授業、行事、部活動、友達、家族、地域生活などで印象に残った出来事を学級で自由に出し合わせ、ヒントとさせる。 ・下の句には具体的な事柄を一つ読み込ませるようにする。 <p>【評】短歌を創作する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、生徒の作品をプリントにまとめてみんなで読み合えるようにしておくといよい。 ・名前を伏せておくといよい。 ・評価カードを用意する。 <p>【評】他の人の作品を評価する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれなが

ら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会えるだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。